

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800386
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム百
所在地	岡山県久米郡美咲町書副180-4
自己評価作成日	
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3373800386-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今この時を大切に」「今が楽しい」を念頭に「第二の家」として御家族、ご本人が「どこよりも此処で暮らせて良かった」と生活を楽しみ満足して頂ける様、職員間で思いを共有し支援しています。又、ご本人にも出来ることはして頂き、出来ない部分は一緒に行い達成感や喜びを感じて頂ける様、自立した生活をして頂きと考えています。その実現に向けて職員一人ひとりがプロとしての自覚を持ちスキルアップに努め、認知症の周辺症状の緩和、体調管理、ご本人らしく生活できる居場所作りの支援に努めています。高齢化に伴いターミナルケアに対しても御家族の意向に百で出来る限りの支援を行って行こうと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Aさん(男性の利用者)本人の口から出た言葉(生活に対する意向)の、「わしは、ここがええんじゃ!」をしっかりと受け止めた管理者・職員は、Aさんらしさを十二分に発揮してもらい、他の利用者とのバランスにも配慮しながら「今が楽しい」「笑いが絶えない」を念頭に置いて共に面白く暮らしている。Aさんに限らず一人ひとりの「その人らしさ」が大切にされ、多少の問題もおおらかに、しかし、少しでも自立した生活を目指した支援をしている。ただし、今は未だコロナ禍収束の見通しが立たない状況。コロナ禍の当初からこのホームでは、家族の協力・理解を得て、徹底的に対応策を重ねてきた。平素当たり前に楽しんでたイベントや外出が出来なくなった為の利用者のストレスに対する職員の「あの手・この手」の努力に拍手を送りたい。初夏の頃になれば本来の笑顔が蘇ってくるのでは?と期待しているところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、MIND、職務行動指針を千寿福祉会で統一し、玄関・ホールに掲げユニットの特性、認知症専門の施設の特性を活かし、今この時を大切に楽しく笑顔で自立した生活をして頂けるケアを心掛けいつも側に寄り添い、安心安全な暮らしが提供できる様努めています。	一人ひとりの思いや要望と、集団生活の中での制約のはざまの中で、管理者を中心として職員は上手い交通整理をしている。理念の共有と実践が上手く出来ているのはその所為と思う。大半の利用者も心広く、共にこのような日常を受け入れているのだろう。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置している為、地域の方との交流は少ないが、隣接する施設との付き合いも交流と考え、さやか祭りや3施設合同のカラオケ大会、歌声コンサートに参加。又、「いろりばた」のボランティア団体を招いての行事、オレンジカフェへの参加、百での開催など実施。(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)	地域との交流については、国や市町村、その他の指導や指示に従ってコロナウイルスの関係でほとんど中止としている。法人全体としても、問題が発生しないように極力慎重な行動を指導している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族、民生委員の方の運営推進協議会への参加、行事などへの地域の方の参加、認知症見守り声掛け模擬訓練や動画の作成等、認知症への理解や支援に努めている。(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社協、地域包括、御家族、民生委員等の参加、年6回の実施を通して、活動状況、ケアの困難事例の相談やアドバイスをケアに生かしている。(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)	運営推進会議に関しても関係者が集合して報告や話し合う取り組みは現在も中止としている。必要な情報交換や連携は、支障の無い方法で取り合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会の町職員が参加。地域包括主催の認知症カフェ、認知症見守り声掛け模擬訓練、啓発動画の作成の協力など相互関係の強化に努めている。(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)	運営推進会議が実施されていた時は、その時に情報交換や指導を受ける事で連携がよく取れていたが、コロナの関係で現在は直接話し合う事が出来ないため、電話やその他の方法で連絡し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招いての身体拘束についての研修の実施や施設内研修等を行い、職員間での意識付けを行っている。	定期的にグレーゾーンのケア等研修を実施している。他の施設と合同で「職員禁止ワード集」を作成する試みにチャレンジする等、積極的に取り組んでいる。	他の施設と協力し合って、自ら独自の学習方法にチャレンジする試みはとても良いと思う。今後もこれにならって自主的な実践を続けて下さい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、伝達簿の利用をし情報の共有化をしている。外部講師を招いての研修を実施、機会がある際には、情報を職員間で共有して、虐待が見過ごされることがない様、自分達にあてはまらないか、振り返り注意・防止に努めている。又、3施設合同で禁句ワード集の作成に取り組み来年度に向け施設内研修や新人研修等に活用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の在籍者もあり職員は概ね理解している。又、外部講師を招いて研修にも参加にて資料あり(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続きの際は、説明の時間を設けている。改定時等は、重要事項説明書にて説明し同意を得る等、理解を得ている。(変更事項の際にはその都度同意を得ている)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱の設置や年度末には、家族交流会を実施し、施設の参観日と題して利用者様の日常を見て頂く。管理者とご家族で別室にて日頃の様子を伝え、ご家族からも一言づつご意見をお願いするなどご家族の意見も反映するよう取り組んでいる。ケアプラン更新時には、御家族直筆にて記入して頂くよう依頼し、運営に反映させている。(今年度はコロナウイルスの影響にて交流会も中止)	日頃から職員は一人ひとりの利用者の行動や発言によく注視し、ケアにつないだり職員間で共有する仕組みを打立っている。家族に対しても出来る限り意見に耳を傾けるようにしている。	書類の中に「苦情処理調書」が有り、少数ではあるが記録も見られた。些細な案件や、苦情に至らない内容も事例にあげて検討し、家族に何らかの方法で事例を伝える事で、家族は気軽に意見が伝えられるかもしれない。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、伝達簿など出来るだけ、職員が意見を言える機会、ツールを設けている。	職員会議やケア会議等の記録を見ても、業務について各自の意見を聞き、案を検討している状況がよく理解できた。日々の生活の中でも、職員同士思う事が言い合える雰囲気がよく伺える。	このホームの運営やケアの有り方・細やかな業務の有り方等々の意見や指示のほとんどが詳細に記されている。「申し送りノート」がすべての柱となっている。これらに加えて意見交換のきっかけも増やして欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面会者や御家族より実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に伝えたり、管理者は研修で学んだ「誉める」を実践。職員の労を労らい就業意欲を高めてもらえる様、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修を受ける機会を設け、日々の業務では、お互いに注意しあえる環境作りを念頭に働きながらケアの質の向上を目指している。(研修についてはコロナウイルスの影響にて全て中止)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修、近隣施設と交流時などを利用しサービスの向上に努めている。(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い御本人・御家族の意向に添えるようなケアプラン作成に努め、サービスを提供するよう努めている。また、個人担当制を行います担当の職員との馴染みの関係を築いてよりよいケアが出来る様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接や、面会時を利用し御家族の思いを伺いケアプランを作成し更新時は、1表に御家族に直接希望を記入して頂き、状況変化時にはその都度御家族に報告し連携を図る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性についても話し合いケアの向上に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今この一時を大切に出来る事はして頂きながら、職員と共に役割をもって、笑顔の絶えない自立した生活が出来様、支援させて頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時、面会時等の機会には利用者様の日常についての報告や状況変化時には、迅速な報告を心掛け、御家族と受診に行くなど要望に添えるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等あるが施設入居で距離もできていた為、職員との個人担当制を採用、まず職員との馴染みの関係を構築、職員が間に入るなど支援を行う。又、コロナ渦にて設備投入しリモート面会も導入したが御家族、ご本人とも喜ばれず操作も困難にて窓越し面会を実施。	コロナ禍の状況では面会も制限せざるを得ず、いろいろ考えWi-Fiの設備をしてリモート面会の環境を整えたが、家族が対応出来ないケースもあり、対策をした上で対面式の面会をしてもらっている。ある人は入居時同級生がたまたまホームに居た事で安心してすぐに馴染みその人と仲がいいそう。それぞれの馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し気の合う人同志の席を近づけたり困難な方には職員が関係を築ける様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者死去という形での終了の為、契約終了後、御家族と交流まではいかないが、他利用者様と、思い出話等の会話を通してご本人様をしのぶことあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添える様、御家族、面会者等からの情報収集や職員間の情報の共有、関係性の強化に努め、より深いアセスメントが出来る様、心掛けている。	「ここがええんじゃ〜！飯もうまいし、気楽な」というAさんの言葉が象徴するように、本人の思いや気持ちを十分受け止め、「今が楽しい、今が嬉しい」生活が送れるように、それぞれの思いや意向に寄り添い、ケアプランにもつなげるようにしている。	訪問中も私達に「ここは楽しいよ〜、ええとこよ〜」と嬉しそうに教えてくれたAさん。自由に自分らしく暮らしている証拠だろう。この自由に楽しいホームのカラーを守り続けて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や御家族へ経歴を尋ねたり利用者様との会話の中で把握に努めたりしている。また、入所前にご家族にフェイスシートをお渡ししかけれる範囲で記入を依頼。(生活歴など)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックの実施、入浴時の全身観察を通して、身体状況把握に努め、体調管理を行い、変化時の早期発見につながる様、心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録の訂正には二重線で統一し、御本人、御家族様の希望を伺いながら生活の質の向上につながるプラン作成を心掛け、特に御家族には職員に遠慮され「特にありません」と言われる事も多い為、プランを送る際、御家族の欄を白紙にして、御家族様の言葉で記入して頂ける様、試みている。	本人の意向を聞くのはもちろんの事だが、面会等で家族に会った時にもケアプランに書く部分を重点的に聞き取っていると聞いた。日々の支援経過記録が詳細で利用者の状態もよく分かり、身体状況・精神状況の把握に努め、ケアプランに活かすようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録などにより情報の共有を図り見直しにつなげている。また、重要、緊急性のある情報は伝達簿への記入を行いより早く、職員間での共有が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族と連携を図り柔軟な対応を心掛け、出来る限りのご要望に添える様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	連宮推進協議会にて地域との交流に付いての検討をしたり避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用をしている8成年後見制度・生活保護制度)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医連携し、適切な医療が迅速に受けられる様支援する。又、受診結果の情報はご家族、嘱託医には報告し職員間には受診ノートに記録し、緊急性のあること、薬の変更などは、伝達簿にも記入し、情報の共有が早く出来る様、心掛けています。	全員が同じ主治医であり、この日もホームの協力医の訪問があった。往診日は週1回だが週に3~4回、必要な時は毎日でも気軽に来てくれ、何でも気さくに相談出来ると聞いた。訪問看護も週1回来てくれるので、医療との連携が良く出来ていて安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し協力医療機関による受診、1/Wの嘱託医による往診の他、週3~4回は様子を伺いに来所あり、また1/Wの訪問看護体制等を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	主治医との連携を図り、病院も相談に応じて下さり早期の入退院も考慮して頂ける関係づくりを整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要でない場合は出来る限りここで暮らして頂ける様に重度化、看取りに対するマニュアルがあり、入所前の説明時や契約時に御家族には説明をしている。	看取りは過去に一例あるのみで、重度化や医療が必要となったケースは入院や他施設へ移行するケースが多い。今後の事については家族ともよく話し合っており、「本人が食べられなくなる手前までこのホームで生活を送って欲しい」という家族の希望もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての勉強会(救急蘇生法)の実施やマニュアルあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や敷地内3施設合同訓練、隣接する施設との協力体制、消防団を交えての会議(協力体制、ライフライン断切時等)夜間職員1人体制の為、緊急時は勝手口から応援に来れる様、鍵を預ける相互連携、協力体制が出来ている。また、最近問題になっている防犯についても、監視カメラを隣接施設がメインではあるが百もカバーしてもらい、設置し安全、安心して頂ける様実施。又、災害時事業継続計画(BCP)についても3施設合同の研修、勉強会を実施。	年2回、定期的に昼・夜間の避難訓練を実施している。消防設備点検、津山圏域消防組合の消防査察もあり、3月・9月には法人施設との合同の避難訓練をしお互いの連携を図っている。法人の4事業所全体で災害時事業計画に取り組んでおり、毎月調整会議をして協力体制を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさ、その人なりを尊重し、尊厳も守り誇りやプライバシーを傷つけない言葉掛け支援を心掛け、職員間でも「あれ？」と感じた時は注意しあえる様取り組んでいる。	役割を持ち、出来る事(仕事)をしてもらう事で喜びや生きがいにつなげ、誇りや自尊心を尊重している。例えば、牛乳ビンを外に出す役割の人、おぼんを拭く役割の人等がある。本人・家族の了解を得て同じ苗字の人は下の名前で呼んでいる例もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	楽しみや生き甲斐となるような役割を持って頂きその日の気分や体調に合わせて対応を実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、お一人お一人がその人らしく日々を暮らして頂ける様、個別支援を大切にコミュニケーションや声掛け、レクリエーションなど多く関わりを持って笑顔あふれる日々を暮らして頂ける様、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等衣類の選択や理美容院の利用時の希望等を伺い入浴日以外や入浴されなかった時は基本毎日更衣を実施し、おしゃれ、衛生面の注意を図る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は家庭でしている様に冷蔵庫の中のものでメニューを考え、利用者の方にも、食時前のテーブル拭き等の役割を持って頂き、1棟・2棟合同の食事会、外での食事や、旬の物の取り入れや、好みの物、希望、物の購入や行事等にに応じたメニューの提供を心掛けている。今年度より、職員1名が検食しながら、利用者様と一緒に食事をしている。また、検食も定着にて利用者の方への食事への満足度を高めるため給食会議、メニューの開示、不定期に検食の交換などを試みて行きたいと考えています。(今年度はコロナウイルスの影響にて両棟の交流もできず給食会議、メニューの開示、不定期に検食の交換は実施出来ていないので実施に向けていきたい。	厨房から食欲をそそるいい匂いが漂ってくる。今日の昼食は職員手作りのチラシ寿司。隣の棟はお魚料理。それぞれの好みもよく聞いて、五感も刺激しながら食事が楽しみとなるように献立を考えている。毎月1回はお刺身の日があり、職員が買い出しに行っている。これまでよくしていた焼き肉、BQの代わりに回転寿司店からにぎり寿司を注文し皆さんに喜ばれたそう。出来る人にはお盆拭きやテーブル拭き等、手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ミズ・メシ・クソ」を念頭に1日1500カロリー、1500CCを目標として、1日の摂取量をチェック表に記録し把握する。毎月の体重測定を参考に体調に応じ提供している。特に水分は不足しがちな為、季節に応じた温度の物、種類などにも配慮し、飲んで頂く様心掛けている。夏より、電解水(ラクーナ)の取り入れにより、水分摂取量の増が見受けられるようになった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・就寝時の義歯消毒を実施し能力に応じたケアや歯科医による年1回の口腔ケアの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により状態把握し個々にあった方法を考慮し対応し、下剤服用時や夜間のみ紙パンツ使用するなど御本人様の自尊心を大切に車椅子利用の方も、パットは使用しているが、トイレでの排泄を目指し、気持ちの良い暮らしができるよう支援している。	車椅子の人は紙パンツにパット、紙オシメ等であるが、両棟とも排泄が自立で布パンツで過ごしている人が多く、適宜その人の排泄状態に合わせながら声かけをして自立支援を促している。中には夜間のみポータブルトイレを使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷たい牛乳摂取や、入浴後のお茶提供、レク後にお茶を勧めるなど機会をとらえて声掛けし、水分をしっかりと摂取して、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を入浴日以外の方、体調不良などで入浴されない方は全更衣・下清拭を実施。それぞれの好みの湯温にて入浴して頂き、リフト浴も導入し重度の方も快適な入浴が出来る様支援。	両棟にリフトが設置されており、重度化が進んだ人は二人介助やリフト浴をしているが、自立の人も介助が必要な人も皆湯船に浸かりしっかりコミュニケーションを取りながら楽しく入浴してもらっている。その日の気分によっては入浴を渋る人もいるが、職員の手順や工夫で特に困る事はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時等その時々に合わせて臥床したり、夜間眠れない利用者様には日中しっかり起きて頂く様声掛けし良眠につながる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し、受診時や緊急時に使用し、変化時はその都度伝達簿を利用し申し送りにて理解している又与薬ミスの無い様重複チェックの仕組みを実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は、数人でおしゃべりしながら、洗濯物を畳んで頂いたり、お盆、お膳、テーブル拭き等、利用者様自身で「まだまだ役に立てる」と言う気持ちになって頂けるよう役割を持って頂いたり好きなテレビ番組を見たり、レクで歌やことわざカルタや、季節に応じた、折り紙を折って、掲示板を飾るなどして頂き気分転換を図る。(催し、イベントへの積極的参加)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1棟2棟合同で外にテントを設置し、外での食事を楽しんで頂いたり、1棟では天候、体調に合わせて数人単位でドライブに出かけたり、2棟の方では11月に紅葉がりに、御家族・職員と出掛けるなど支援している。又、庭でのお茶会・食事会などを暖かい季節や天気の良い日に実施。(今年度はコロナウイルスの影響にて全て中止)	目標達成計画にも挙げて、一人ひとりに合った外出支援(個別支援)に取り組んでいたが、このコロナ禍の状況では十分な支援が出来ていない。しかし、法人の他施設も併設されている広い敷地内を散歩したり、天気の良い日には庭で日光浴や外気浴が楽しめるので良い気分転換になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、所持は困難だが個別対応にて購入希望により食材買い出し時に購入し、預かっている所持金よりの支払いもある。(所持しないと不安と思われる利用者様の方には、御家族了解(紛失等)のもと所持して頂き、担当が時々チェックを行っている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者様手紙を書く事はあまり無いが御家族の面会はよくあり遠方の御家族とは電話にて連絡をしている又会話困難者には職員が状況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに行事(クリスマス会)等に参加したり、フロアに季節感(飾り・絵)を採りいれている。温度計に注意しながら、それぞれの場所(浴室、居室、ホール)で快適な空間が提供できるよう、空調管理を行っている。	訪問中もリビングからは楽しそうな歌声や利用者同士の会話、職員と利用者の絶妙なトークが聞こえてくる。コロナ禍の為、皆さんの輪の中に入れないのがとても残念だが、この和やかで楽しい雰囲気はいつもの事。職員が力を入れてリニューアルしたという庭にはテーブルと椅子が置かれ、茶話会にも活用され憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いの場所で仲良しさんとゆっくり過ごせる様、又、体調不良など身体面も考慮し居室で休んで頂いている方も一人ぼっちにならない様に訪室や声掛けなど細やかに配慮し安全で安心できる支援。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	曾孫様の写真や予定を書き込むカレンダーの掲示をしたり、レク等で作成した作品を展示するなどしているご自分のタンスの持ち込み等あり。(冬季は個別に必要なに応じ、御家族と相談の上加湿器の設置)	Bさんの部屋を見せてもらおうとネコ時計にネコクッション等々ネコグッズに囲まれ、家族がネコ好きなBさんの為にいろいろ送ってくれるとの事。フローリングに畳を置き、その上に布団を敷いて安全対策をしている人、あえて物を置かないシンプルな部屋等、その人の症状に合わせ安全に快適に過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カラオケや体操など楽しみであるレクリエーションやOT作業、TV鑑賞など無理のないよう配慮しながら職員も一緒に参加し楽しんで頂き、夜はパジャマに着替え「夜なので寝ましょう」ということが理解できる様、又理解できない方にも日中と夜間のメリハリをつけ体を休んで頂ける様支援。		